2019 12.23 vol.909

JA全農ウィークリー WEEKLY

4-5面

対談 全農 経営管理委員会 長澤豊会長 × 神奈川大学 兼子良夫学長

グローバル社会に向け 人財を育む（広報・調査部）

6面

Aコープ・ファミリーマート一体型店舗 福島県で2店目オープン（くらし支援事業部）

開店初日からにぎわうファミリーマートAコープ松川店（6面）

山形県産果汁を使用した「雪山ソルベ さくらんぼ」（左）と「同 ら・ふらんす」（6面）

グローバル社会に求められる人材などをテーマに語り合った長澤会長（左）と神奈川大学の兼子学長（4-5面）

2 石川・三重・和歌山で青空講習会を開催（西日本営農資材事業所）

「楽々日誌パナミエール」設置工事費を割引（米穀生産集荷対策部）

3 CSF（豚コレラ）対策研修会を開催（畜産生産部）

「第3回日本の食品輸出EXPO」に出展（輸出対策部、JA全農インターナショナル㈱）

「とうほく創生Genkiプロジェクト」フォーラムに参加（東北営農資材事業所）

6 国産ブロッコリーライスを開発・販売（営業開発部）

県産果汁の氷菓子「雪山ソルベ」発売（山形食品㈱）

7 第10回全国農業高校お米甲子園に特別協賛（米穀生産集荷対策部）

「おむすびキッズコンテスト」結果発表（米穀生産集荷対策部）

石川米の新品種「ひゃくまん穀」でおにぎり教室（石川県本部）

8 12月29日に第2回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会開催（広報・調査部）

ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」プレゼント（広報・調査部）

JAタウンショップ紹介 ぎふ～JAめぐみのマルシェ～（岐阜県）

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

NHK歳末たすけあい 各種イベントの売り上げなどを寄付（広報・調査部）

卓球グランドファイナル報告 今季最終戦もニッポンの食で応援！（広報・調査部）

卓球天皇杯皇后杯（1月） 副賞・ブースで全農取扱商品をPR（広報・調査部）

News!

石川・三重・和歌山で青空講習会を開催

水田や果樹園地で土壌断面を観察

西日本営農資材事業所

全農は農業者団体と連携しながら生産振興を進める中で、平成27年度から青空講習会を開いています。今年は石川、三重、和歌山で開催しました。

石川県では10月25日、4Hクラブ元会長の竹本彰吾氏が代表を務める㈲たけもと農場の水田で行いました。近くの若手農業者やJAから44人が受講し、講師は稲わら秋すき込みの重要性を訴えました。

三重県では11月6日、県本部が若手農業者研修「アグリキャンパス」と同時開催で㈱前川農産の水田で開き、27人が参加しました。

さらに、11月20日には和歌山県農と協力しながら、県内JA職員を対象にミカン園で開きました。

参加者からの講習会アンケートでは、「土壌断面を初めて見た」「土壌断面を確認できて今後の対策が見えてきた」といった声があり、安定生産には「土づくり」が重要であることを訴求することができました。

今後も土壌診断を活用した施肥改善を農業者とともに実践することで、生産者手取りの最大化を目指します。

1mの深さまで堀削した断面を全員で観察（石川県で）

検土杖を使ってミカン園の土壌断面を確認（和歌山県で）

News!

「楽々日誌パナミエール」設置工事費を割引

2月末申し込み分までキャンペーン実施中

米穀生産集荷対策部

全農は、農業倉庫管理サポートシステム「楽々日誌パナミエール」の発売を記念して、設置工事費割引キャンペーンを実施中です（来年2月末申し込み分まで）。

同システムは温湿度管理の自動化・遠隔監視・管理日誌作成補助機能を具備し、帳票作成業務を省力化できます。また、専門オペレーターの点検により衛生管理改善ポイントも把握できます。

ぜひこの機会に導入をご検討ください！

「楽々日誌パナミエール」はこちら

農業倉庫管理サポートサービス「楽々日誌パナミエール」の概要

News!

ＣＳＦ（豚コレラ）対策研修会を開催

専門家や行政担当者招き、基本情報・国内対策などを解説

畜産生産部

畜産生産部は11月29日、東京・大手町のＪＡビルでＣＳＦ（豚コレラ）対策研修会を開きました。

畜産関係者の関心が高く、参加者は１００人を超えました。

日本獣医生命科学大学の青木博史准教授、農林水産省家畜防疫対策室の下平浩己課長補佐、ＪＡ愛知経済連農畜産物衛生研究所の中神智裕課長補佐、全農家畜衛生研究所クリニック東日本分室の黒田まほ室長が講師となり、ＣＳＦに関する基本情報・国内対策などについて理解を深めていただきました。

CSFに関する発生地域での対応を説明するクリニック東日本分室の黒田まほ室長

News!

「第３回日本の食品輸出EXPO」に出展

アジアのバイヤーを中心に約50件の商談実施

輸出対策部、ＪＡ全農インターナショナル㈱

輸出対策部とＪＡ全農インターナショナル㈱は11月27～29日、千葉市の幕張メッセで開かれた「第３回日本の食品輸出ＥＸＰＯ」に、各経済連・県本部の協力を得て、青果物・加工品を出展しました。

予約商談に加え、イチゴの鮮やかさなどにひかれた飛び込み商談など、アジアのバイヤーを中心に約50件の商談を実施。中には昨年から２年越しで成約見込みに至る商談もありました。

今後も輸出拡大に向けた取り組みを続けていきます。

多くのバイヤーが訪れた全農のブース

News!

東北の活性化に向けた対応を提言

「とうほく創生Genkiプロジェクト」フォーラムに参加

東北営農資材事業所

全農東北プロジェクトは東北七新聞社協議会が主催する「とうほく創生Ｇｅｎｋｉプロジェクト」に協賛しており、12月1日、岩手県盛岡市で開かれたフォーラムに参加しました。

テーマは「かがやくとうほく」で、３５０人が傍聴しました。ラグビーＷ杯２０１９アンバサダーの廣瀬俊朗氏の基調講演の後、公開討論では東北営農資材事業所の岩田和彦所長が登壇し、全農東北プロジェクトの取り組み紹介に加え、農業を基軸とした産業力向上やインバウンド（訪日外国人旅行者）拡大策などについて提言しました。

公開討論に登壇し、東北の農業振興を提言する岩田所長（右）

談

財を育む

神奈川大学 兼子 良夫 学長

内農業の維持・発展、地域の活性化のため、農業や地域の担い手をいかに
長が、同じ山形県出身で神奈川大学の兼子良夫学長と語り合いました。

かねこ・よしお　1955年山形県出身。大阪大学大学院経済学研究科修了。大阪大学博士（経済学）。2013年神奈川大学経済学部長を経て、16年4月から学長に就任し現在に至る。文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員、公益財団法人大学基準協会理事、日本サラマンカ大学友の会理事、山形県総合政策審議会会長、神奈川県日中友好協会副会長なども務める。

グローバル社会に求められる人材

兼子良夫学長　これからの大学の存立に必要とされるものは、時代を切り開く力であり、いかに人類の未来に貢献できるかに懸かっています。未来社会を先導する研究と国連が示した持続可能な社会（SDGs）への取り組みを強化して、その叡知を教育に反映し、地域や社会の課題解決に生かしていきます。本学は、2020年4月に「国際日本学部」を、21年4月に「みなとみらいキャンパス」を開設します。これらは、本学の100周年後の発展を担うとともに、世界標準の総合大学として責務を全うするためのものです。

長澤豊会長　全農は、肥料や飼料の原料の輸入に加え、国産農畜産物の輸出などの海外事業を広く展開しています。輸出事業の海外拠点においては、その土地のマーケットに精通した現地人材の活用が重要となっており、連携していかに成果を出すことができるかが問われています。一方、国内農業の現場は人手不足で、海外からの技能実習生抜きで持続的営農は難しいのが現状です。TPP、日EUのEPA、日米貿易協定など、世界の貿易の門戸が広がる中で、日本農業をいかに維持・発展させていくか、また、世界の方々に日本の農畜産物をいかに届けるか、グローバルな視点を持つ人材が今まさに求められています。

兼子学長　国際化とダイバーシティーが当たり前となり、国を超えて人とモノが行き来し、国家間の相互依存関係が濃密な時代にありながら、国境、文化、宗教などの壁が立ちはだかり「対立と分断」に直面する困難で複雑な世界に私たちは生きています。このような中、世界と日本の文化と歴史そして多元的な価値観を理解し、共生に関する世界標準の倫理を身に付けた人材が不可欠と考え「国際日本学部」を構想しました。新設する「日本文化学科」と「歴史民俗学科」の母体が、本学が世界に誇る「日本常民文化研究所」であることが他大学にない特長です。同研究所では、日本民衆の生活・文化・歴史を調査分析する先駆的活動を展開してきましたが、日本農村の社会学的研究はじめ共同体や農具についての研究も行っています。

地方活性化へ農業、教育の〝一手〟

長澤会長　近年、農村を訪れてその魅力を味わう「農泊」への関心が高まってきています。全農は、「農泊」の拡大に向けて取り組んでいます。その一つとして、全国各地の宿泊施設や飲食店、農業体験等の情報を集めたポータルサイト「農泊ネット」を今年10月に開設しました。このサイトなどを手掛かりに、少しでも多くの人に農村を訪れていただくことが、地域活性化の重要な一手になると考えています。また、全農は生産基盤の拡充を中期3カ年計画で掲げており、その手立ての一つが生産性向上の技

対

グローバル社会に向け人

全農 経営管理委員会 長澤 豊 会長

TPP、日EUのEPA、日米貿易協定などグローバル化が進展する中で、国内育成していくかが問われています。全農の長澤豊経営管理委員会会長

術活用です。技術の開発・普及や人材育成の促進などのため、大学をはじめとする各地の高等教育機関と連携しています。

兼子学長　本学では、学生食堂において山形産「はえぬき」を使って「100円朝食」を提供していますが、2009年度からJA庄内みどりのご協力のもと、農業体験の機会を提供しています。生産者や農協職員の皆さまとの会話や稲刈り体験等を通して、「農業」についての気付きはもちろん、人としての生き方や共同体についても考える契機になっているようです。

農業は、「絶対的な必需財である食料の供給」と「自然環境の保全」の役割とともに、市場メカニズムでは計れない「共同体機能」と「文化の伝承」の役割をも担っています。このような日本農業に対する持続可能性と地方創生への提言は、日本常民文化研究所をはじめとする秀逸な知見を持つ総合大学である本学が全力をかけて取り組むべき課題だと認識しています。

長澤会長　農業の現場では多くの若い方々が活躍しています。自然の中で働き、自分の作ったものを消費者においしく食べていただくことに魅力を感じて就農した人もいます。得意なことを生かし、自由な発想とやり方次第で、収益の上がる経営ができます。多くの若者にやりがいのある職業として捉えてもらい、農業の未来を担っていただければと思います。

兼子学長　感性豊かな青年期に文学、歴史、芸術等に親しみ、「教養」を深めることを望みます。社会の変革は、教養ある想像力豊かな人間から生まれることが期待されています。その上で、SDGsに向けた動きに主体的に関わってほしいですね。

※本稿は、12月8日に山形新聞に掲載された記事を同紙の許可を得て要約・転載したものです。

News!

「ファミリーマートAコープ松川店」オープン

福島県内２店目となるファミリーマートとの一体型店舗

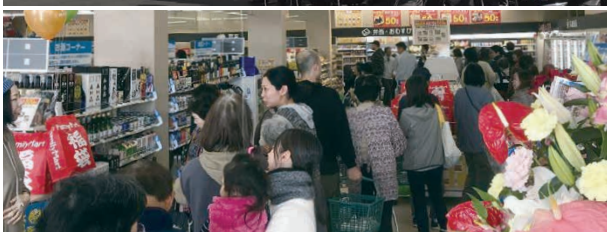
くらし支援事業部

Aコープとコンビニエンスストアの一体型店舗「ファミリーマートAコープ松川店」が11月13日、福島市にオープンしました。

㈱ファミリーマートと全農による包括提携に基づくもので、全国で18店目、福島県内では2店目です。

開店から30年経過した従来店舗の老朽化や地域ニーズの変化に対応するため、店舗の大幅改装を行いました。ファミリーマートの利便性を加え、さらなる利用満足度の向上を図ります。

多くの関係者が出席した開店セレモニー



開店初日からにぎわう店内

News!

国産ブロッコリーライスを開発・販売

総菜メニュー２品　㈱ダイエーで販売中

営業開発部

全農グループMD部会は、㈱ダイエーと共同して、ブロッコリーの契約産地化により国産ブロッコリーライスを開発しました。

ブロッコリーライスは、㈱ダイエー、JA全農青果センター㈱や業務提携先である㈱マルマサフードと共同して開発しました。

原料のブロッコリーは埼玉県熊谷市で契約栽培。根元近くでカット・収穫し、通常は捨てられていた茎まで活用します。

ブロッコリーライスを使用した直火炒め炒飯（チャーハン）とビーフカレーは12月1日から㈱ダイエー関東エリアの約40店舗で販売中。販売期間は年末年始を除く12、1月の2カ月間を予定しています。

ブロッコリーライス（右上）と、それを使った直火炒め炒飯（右下）・ビーフカレー

News!

県産果汁の氷菓子「雪山ソルベ」発売

「さくらんぼ」「ら・ふらんす」の２種類

山形食品㈱

山形県本部の関連会社の山形食品㈱は12月7日、県産果汁の氷菓子「雪山ソルベ」を発売しました。

山形を代表する果物「さくらんぼ」と「ら・ふらんす」の2種類で、果汁をたっぷり60％使用しています。

果実本来の味わいを大切にし、「さくらんぼ」は繊細な香りと甘酸っぱさ、「ら・ふらんす」は芳醇（ほうじゅん）な香りや甘さ、とろける食感が楽しめます。

山形県内のJA直売所や、みのりみのるマルシェエスパル山形店などで販売しています。

山形県産果汁を使用した「雪山ソルベ さくらんぼ」（左）、「同 ら・ふらんす」

News!

最高金賞の新発田農高に副賞を贈呈

第10回全国農業高校お米甲子園に特別協賛

米穀生産集荷対策部

第10回全国農業高校お米甲子園（主催：米・食味鑑定士協会）が12月1日、千葉県木更津市で開かれました。

同大会は高校生たちが育てたお米のおいしさを、機械による鑑定と人による官能検査により競います。

当日は全国から応募した78校（183検体）から、最高金賞に新潟県立新発田農業高校が選ばれ、特別協賛した全農は副賞に国産牛肉10kgと「NORICE NOLIFE」とデザインされた帽子を贈りました。

全農は国産米の消費拡大のため、お米に関するさまざまなイベントへの協力を実施します。

最高金賞を受賞した新発田農業高校に副賞を贈る全農の高尾雅之常務

News!

「おむすびキッズコンテスト」結果発表

創意工夫あふれる1394作品から受賞作選出

米穀生産集荷対策部

7～10月に作品を募集していた「おむすびキッズコンテスト」（一社）家の光協会・JA全国女性組織協議会が主催、全農が協賛）の審査結果が、このほど発表されました。

このコンテストは、和食文化継承の意義、米の消費拡大や地産地消の大切さに対する理解を促すことを目的に開催されました。小学生の創意工夫やお米への思いがあふれる1394作品の中から、料理研究家や全女協理事らによる審査で最優秀賞・優秀賞・優良賞が選出されました。

最優秀賞を受賞した「花火おにぎり」（新潟県5年 倉地真由さん）（左上）、「おやこおにぎり」（愛知県3年 中村春日さん）（左下）、「牛ねぎまきごはん」（佐賀県2年 近藤鈴佳さん）（右上）、「頑張ろう千葉おにぎり」（千葉県1年 大沼俊翔さん）

News!

石川米の新品種「ひゃくまん穀」でおにぎり教室

園児たちにお米のおいしさと作る楽しみ伝える

石川県本部

石川県本部は11月27日、石川県の新しいお米「ひゃくまん穀」を使用したおにぎり教室を金沢市内の幼稚園で開きました。

この教室は、「ひゃくまん穀」を通じて、園児たちにお米のおいしさや作る楽しみを知ってもらおうと企画したもので、約80人が参加しました。

園児たちはサケほぐしなどの具材をご飯に詰め、三角や丸型、好みの形に握って満足そうにほお張っていました。「簡単だから家でも作る！」といった声も聞かれ、石川県産米の魅力を伝えることができました。

手作りおにぎりを頬張る園児たち。左は、JAグループ石川県産米PRキャラクターの「ライスケ」

TODAY'S AGRI NEWS
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週（月）～（金）6:30～6:35全国一斉放送!
今朝の日本農業新聞の記事とJAの役員インタビューをお届けします!

JA全農チビリンピック2019 第2回全農杯全日本小学生カーリング選手権大会

12月29日に開催!

子どもたちの健康づくりやカーリング選手の育成をサポート! 【広報・調査部】

今年も、全国各地から約40人の子どもたちが集まり、12月9日に東京都の明治神宮外苑アイススケートリンクで熱戦を繰り広げます。平昌オリンピックの昨年に続き、チビリンピック（毎年5月開催）の冬季大会として今年2回目を開催します。

全農は、もぐもぐブース（イチゴやミカン、グループ会社や全農ブランド商品の食材提供コーナー）を設置し、国産農畜産物の消費拡大と全農グループのイメージアップを図ります。

また、ゲストとして小笠原歩さんや山口剛史さんなど豪華な元オリンピアンのゲストをお招きする予定です。ぜひご来場ください!

昨年の試合の様子

開催日
12月29日（日）

会場
明治神宮外苑アイススケートリンク

参加チーム
shooting stars(北海道)、チーム青森キッズ(青森)、盛岡カーリングスポーツ少年団(岩手)、T.Tキッズ(関東)、チーム山梨(山梨)、新潟ジュニア(新潟)、軽井沢U-12(長野)、チームおかくま(西日本)

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時～ TOKYO FM系列38局ネット

12月28日放送のプレゼントは、アンズの一大産地 長野県千曲市森地区から「完熟あんずジャム」（400g×2個）を3名様に。しっかり熟した実だけを煮詰めた色も味も濃い高級あんずジャムです。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。 【広報・調査部】

応募は番組ホームページで受付中です。
応募締め切りは12月28日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。
JAタウン https:www.ja-town.com/shop/c/c3801/
（ショップ名：全農長野 僕らはおいしい応援団）

JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

ぎふ～JAめぐみのマルシェ～（岐阜県）

「ぎふ JAめぐみのマルシェ」からご紹介するのは、岐阜県美濃加茂市が誇る干し柿「堂上蜂屋柿（どうじょうはちやがき）」です。

蜂屋柿という品種の柿を千年も伝わる伝統製法により手仕事で加工した干し柿で、古来、朝廷や幕府に献上されており、大玉で形・質ともに優れていたため、朝廷への昇殿を許された格を持つ意味の「堂上」の称号が与えられ「堂上蜂屋柿」と呼ばれるようになりました。

また、この伝統製法が認められ、2007年には食の世界遺産として知られる「味の箱舟」に認定されています。

毎年12月1日に電話や窓口での予約販売を行いますが、即日完売で入手困難な干し柿として東海エリアでは知られております。

今回、その希少な「堂上蜂屋柿」を、年明けから「ぎふJAめぐみのマルシェ」で特別販売いたします。

数に限りがありますので、詳細はショップページをご確認下さい。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は https://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会 2019年（令和元年）12月23日発行（毎週月曜日発行）
第3305号 編集・発行人／広報・調査部 落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル TEL03(6271)8055

休刊のお知らせ
12月30日号は休刊いたします。
次号は2020年1月1日号です。

私たち全農グループは、生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋になります。